

伸び行く小豆島のアスパラガス産地

■ J A香川県小豆島そ菜部会アスパラガス班 ■

(小豆農業改良普及センター 井口 工)

●対象の概要

小豆地区でのアスパラガスの生産は、昭和54年に小豆島で始まり、一時は生産者50名、作付面積4.5haにまで拡大したものの、改植の時期に達したことや高齢化により栽培面積は減少した。

平成14年からは、小豆島町池田地区を中心として、以前にキク栽培を行っていた空きハウスを再利用し、アスパラガスの作付拡大を図るとともに、平成18年より本格的に、栽培品種を「さぬきのめざめ」に変更、新植を進めた。

平成30年度末では、生産者18名、栽培面積2.5haとなっており、次年度以降も新植が予定されるなど、今後も作付拡大が進む見込みである。



新植後収穫1年目、4月の立茎

●課題を取り上げた理由

過去に栽培(品種：ウエルカム)が減少した要因は、密植栽培で、ハウス内での茎葉整理や病虫害防除が困難であったことや、夏場の収穫作業が重労働であり、それを解決するために改植してまで栽培を継続する生産者が少なかったためと考えられる。

そこで、「さぬきのめざめ」の導入に当たっては、できるだけ疎植として、通風・換気が十分行えるように、栽培及び作業環境の改善を進めてきた。

また、新植の推進については、高畝で、通路を広く取った栽植方式を取り入れ、収穫量を減らさずより軽労化を図ることが可能である県標準の栽植方式を導入した。

一方で、小豆島町池田の特産品であるキクのハウスでは、生産者の高齢化等により、空きハウスが増加していたが、ハウスはガラス温室から簡易なアングルハウスまで多様であり、新植に当たっては、それぞれに応じた栽植指導が求められていた。さらに、並行して、新規生産者や栽培経験の浅い生産者に対する栽培指導も行う必要があった。

また、平成24年から選別・荷造り支援のための設備をJ A池田集荷場内に開設し、出荷・荷造りにかかる生産者の労力軽減が図られたものの、受け入れがほぼ限界に達しており、作付拡大に伴い、機械や機器などを拡充する必要があった。

さらに、1戸あたりの経営規模の拡大に伴い、適期の病虫害防除などの作業支援についても、要望が多くなってきた。

●普及活動の経過

1 新規作付に対する支援

空きハウスを活用する場合は、過去の肥料成分が土壌に残っていることが多いため、土壌分析や肥料の残り具合や土性を確認したうえで、定植に当たっての肥料設計を提案した。

また、土壌断面調査を実施し、ほ場の地下水位の高さを測定し、畝の高さの決定を行い、灌漑管理の基礎資料を提示した。

2 新規栽培者支援、巡回講習会の実施

新規栽培者に対して、作付の前に聞き取りを行い、J A担当者とともにきめ細やかに巡回し、基本管理が励行・徹底されるよう指導を行った。

また、栽培者全体の底上げを目指した取組として、農業試験場担当者と協力して、年3回程度、生産者と現地の巡回や栽培講習会を開催し、高畝栽培での栽植・管理技術、品種の特性に合わせた技術の徹底と軽作業化の提案などを行った。

3 出荷調整支援施設・機械の整備

選別・荷造り支援作業を行うJ A池田集荷場では、作付拡大に伴い、出荷調整の受け入れ量が増

大したため、平成28年に自動計量機を導入した。その結果、処理能力が向上して作付拡大にも対応することができるようになった。

さらに、平成29年から30年にかけて作業レイアウトの見直しを行い、作業員の動作環境を改善したことで、効率的に作業支援を行えるようになった。



自動計量機導入による出荷調整作業支援

4 さらに省力化の取組

農業試験場が開発した高畝栽培を平成24年度から導入し、その後、改善しながら徐々に広規格の通路幅の導入を推進した。具体的には、既存のアンクルハウスやガラスハウス等の多様な種類に対応し、それぞれの形状に合わせた畝や栽植密度を設計・提示し、計画どおりに作付できるよう個別に指導を行った。

また、広い通路幅を活かして、平成30年より、小型スピードスプレーヤ(SS)を使った、JAによる病害虫防除支援も始まった。



小型スピードスプレーヤによる防除作業支援

●普及活動の成果

1 生産者、栽培面積の増加

平成18年から栽培を開始した「さぬきのめざめ」の生産者は、現在18名で、栽培面積は2.5haとなり、

JAの野菜取扱額で第二位に成長した。2019年度は、更に20a程度の作付拡大を計画している。

また、生産者は、キクや果樹等との複合経営も多く、アスパラガスの導入は経営の安定化や新規栽培生産者の増加に貢献している。

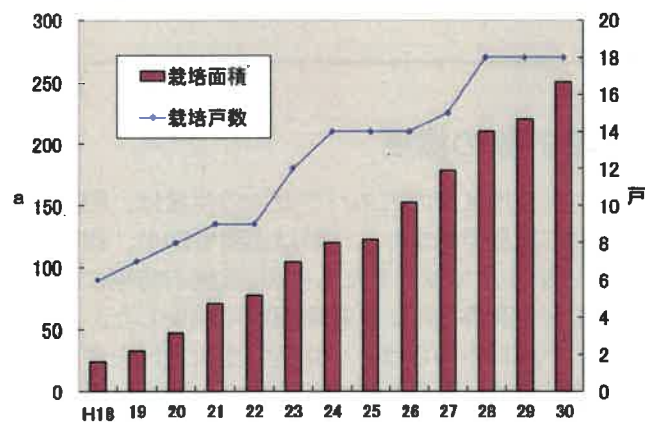


図-1「さぬきのめざめ」栽培者と栽培面積

2 JAアスパラガス班の活性化

高畝、広規格の通路幅により、アスパラガスの受光態勢が改善し生育が良くなったため、最適な栽培管理に対する意識が向上した。また、新規栽培者の増加により、班活動に活気が出ている。

3 作業の効率化

出荷調整の作業支援により、労働力の状況に合わせた作業が可能となり、大幅な軽労化が図られた。また、高畝や広規格の通路幅での栽培管理により、作業姿勢の改善や収穫・管理作業の効率化のほか、SSによる防除作業支援が可能となり、管理作業の軽減が図られた。

●今後の普及活動の課題

1 生産性の向上

アスパラガスは、効率的な栽植計画、栽培法の確立により、野菜の中でも収益性や労力面で有利な品目であるが、高い所得を確保するためには、さらに生産性の向上を図る必要がある。

2 ハウスの確保

アスパラガスの栽培意欲は高く、空きハウス待ちとなっている状況であり、今後も関係機関と協力して円滑に利用権設定を進めていく。

また、小豆島町池田地区の空きハウスは減少、既存ハウスは老朽化が進むと考えられるため、今後、事業などを利用したハウス新設を検討する必要がある。